



福島県立ふたば未来学園初年度前期の取り組み（概要）

平成 27 年 10 月 20 日

福島県立ふたば未来学園高等学校

保護者の皆様、地域の皆様をはじめ、国、県、市町村、ふたばの教育復興応援団など関係機関のご支援に厚く御礼を申し上げます。

学校においては、「変革者たれ」という「建学の精神」のもと、「自立」「協働」「創造」を校訓として、未来を創造する先進的な教育活動を開始し、初年度前期を終了したところです。

○ 生徒について

(1) 入学時の状況

- ・ 広野の本校舎に 125 名、三島長陵校舎に 18 名、猪苗代校舎に 9 名、計
152 名の生徒が入学した。
- ・ うち、三島長陵校舎はサッカー、猪苗代校舎はバドミントンの生徒であり、本校舎を含め、富岡高校を中心とした双葉地区教育構想を引き継ぐ。
- ・ 本校の 125 名のうち 97 名、約 8 割が震災時双葉郡に居住していた生徒であり、他は、いわき市をはじめ、県内各地から入学してきた生徒である。
- ・ 双葉郡のすべての町村から入学してくれた。
- ・ 125 名のうち約半数は寮に入り、他は電車や自転車で通学している。
- ・ 志願者全員が合格し、学力差が非常に大きい。また、避難先を転々とした生徒も多く、様々な課題を抱えて入学してきた。

(2) 学校生活の状況

- ① 全国から注目される中、先進の教育を展開しているが、生徒、教員ともに手探りながらそれぞれの目標を定め、授業、部活動などで落ち着いた学校生活を送るようになっている。
- ② 避難先を転々とし、現在も厳しい環境にある生徒が多いが、それぞれが困難を乗り越えて新しい一步を踏み出している。中学校時代つまずいた生徒も、ほとんどは、毎日学校に来て、学習や部活動などで充実した学校生活を送っている。

○ 双葉郡の復興や全国世界に貢献する人材を育成する「未来創造型教育」を展開

1. ふるさと創造学や、先進の学びに意欲的に取り組んでいる。

困難な課題が山積する現実社会での課題解決型学習、アクティブ・ラーニングを中心にして、新しいタイプの授業を開いている。生徒達は7名のグループに分かれ、町役場、商店、東京電力等を訪ね、地域の現状を調査し、復興に向けて地域が抱えている課題を演劇で表現した。多面的に復興の課題を見つめ、自らの言葉で語ることは、今後の学習の土台であり、今後 SGH の枠組みの中で、生徒自ら復興のプロジェクトを企画・実施していく。



2. S G Hの学習活動に積極的に取り組み、海外へ飛び出そうとしている。

生徒の代表7名が夏期休業中に、チェルノブイリ原発事故の被害を受けたベラルーシを訪問し、前述演劇を英訳して演じた。また、帰国後、広野町で行われた国際フォーラム『被災地・広野町から考える』に登壇し、海外研究者約20名や地域の方々に向けて、演劇を披露するとともに地域の復興に向けた意見交換を行った。また、8月にはジーナ・マッカーシー米国環境保護庁長官を迎える意見交換を行った。長官からは強く感銘を受けたとのコメントがあり、来秋の米国研修時に環境保護庁で再会することとなった。なお、S G Hでの取り組みでは、米国に先立ち、年明けにタイ王国（現地大学と交流）及びドイツ（IB校との交流）への生徒派遣を予定している。年度末には、J I C A訓練所で研修合宿予定。



3. 全国の地方創生先進事例からの学び（SGH）

O E C D東北スクールの後継事業である「地方創世イノベーションスクール2030」に参加し、将来生じる少子高齢化や環境問題等の全国の課題を学び、復興を超えた持続可能な地域作りを構想している。今後授業内のグループ研究でさらに構想を深めるとともに地域で実践し、平成29年夏に自ら国際会議を企画・実践して提言を発信する。また、夏期休業中は県内の地熱発電所や、新潟県十日町市等で行われた「越後妻有大地の芸術祭」を訪問し、様々な形での地域活性化事例を視察した。

9月には島根県海士町のS G H校、隠岐島前高校生が本校寮に2泊の日程で来校し、合同で双葉郡内をフィールドワークし、それぞれの地域の活性化について意見交換を行った。



4. ふたばの教育復興応援団による授業

応援団と教員がひとまとめりの単元を「協同責任編集」する授業をカリキュラムに位置づけながら展開している。平田オリザさんによる演劇制作の授業に続き、8月には山崎直子さん、箭内道彦さん、9月には林修さん、10月からは応援団4名をお迎えして4つのゼミ※を開講し、生徒たちが地域の課題を乗り越えるプロジェクトを企画実践し、11月の学園祭で地域に向けて発表する。* 宮田亮平学長「アートの力」、為末大さん「スポーツの力」、

箭内道彦さん「祭りの力」、平田オリザさん「ドラマの力」の4テーマ
そのほかに、前期は、三島長陵校舎、猪苗代校舎も含めた



全校生の宿泊学習において小泉進次郎復興大臣政務官を迎えて意見交換を行った。

5. I C T（情報技術）の活用

生徒全員がタブレットを持って授業を受けるなど、情報技術を積極的に活用している。

6. 双葉郡内の高校、中学校等との連携

来年度末に休校となる双葉郡内のサテライト高校5校の生徒会に働きかけ、交流会を継続的に実施している。各校の伝統を引き継ぎ、必ず将来各校を復興させるという強い想いが全体で共有されている。生徒の発案で、10月に行われた双葉郡8町村の祭り「ふたばワールド in ならは2015」で合同ブースを出展し、地域に各校の取り組みや復興への想いをアピールした。



また、双葉郡内の中学校とは、8月に交流会を実施し、ふるさと創造学で連携している。一部の中学校とは、本校ALTと英語の教員が授業で交流している。

○ 生徒達の学びを支える取り組み

1. 大学生による学習支援

個に応じたきめ細やかな指導を行うため、中間／期末考査前10日間にわたり、10名以上の教職を目指す福島大学生が寄宿舎に泊まり込み、生徒の学生を支援した。



2. 徹底的な習熟度別の授業

英数国は各クラスを習熟度別に2クラスに分け授業を開いている。後期からは、学力差の大きな集団によりきめ細かく対応するため、習熟度別に5クラスに分け、タブレットとリクルート社受験サプリも活用しながら、火曜日放課後の英数国課外授業も始めた。また、英数については学力上位層向けの朝の課外授業も実施。

3. J F A等による特別講師の派遣



未来創造型教育

～「変革者」を育てる～

福島県立ふたば未来学園高等学校

○ 地域の状況と課題

震災と原発事故という、人類が経験したことがないような災害にみまわれた、わたしたちは、解決困難な様々な課題に直面

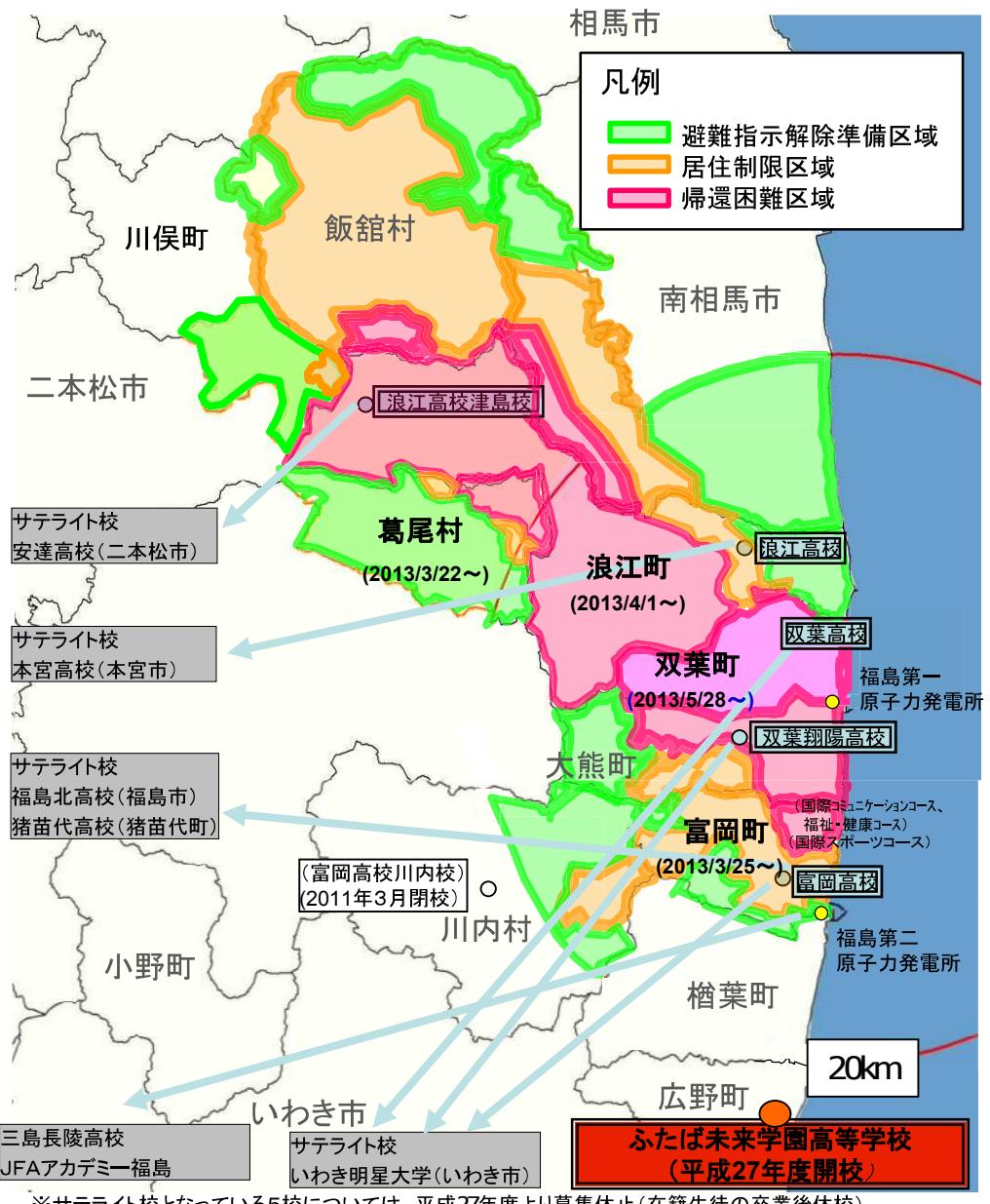
これまでの価値観、社会のあり方を根本から見直し、新しい生き方、新しい社会の建設を目指さなければならない。

○ 生徒の状況と課題

原子力災害による避難で県内外に離散。
大きな喪失経験の中、転校を繰り返す中で、
力を発揮できずにいたり、心のケアが必要な状況

一方で、
ふるさとの地で、友と共に再出発し、
見通しの見えない地域復興を担おうとする意欲をもつ生徒が多い。

双葉郡内の高校の避難状況



【教育目標】

自らを変革し、地域を変革し、社会を変革していく「変革者」を育成する

【校訓（変革のための理念）】

「自立」 自ら動き、自分の頭で考えぬく

「協働」 多様な主体と共に力を合わせる

「創造」 新しい生き方、社会をつくる

【目指す学校像】

- ・ 生徒が主体的に動く学校
- ・ 失敗を恐れず困難な課題に挑戦する生徒を支え、応援する学校
- ・ 現実社会の中で学ぶ学校
- ・ 地域・コミュニティや世界と共に学ぶ学校
- ・ 夢を開く窓がたくさんある学校

実社会におけるグローバルな
課題解決の実践を通じた学習



日本・地域
の良さと課
題を見つめ
る学習

世界へ視野
を拓く学習

ふるさと創造学

(双葉郡の小・中・高校で連携して実施)

(主体性)

(協働性)

(創造性)

大

高

中
小

幼保

ふるさとや
復興に関する
課題解決学習

(for) 未来のために

(with) ふたばとともに
地域の未来・自分の夢をつなぐ

(about) ふたばについて
地域を知る・伝える

(in) ふたばで
地域に浸る(自然・文化体験、食育)

原子力災害からの復興を果たすグローバル・リーダーの育成

◆ 目的：社会課題に対する関心と深い教養に加え、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的素養を身に付け、福島県の復興に寄与するグローバル・リーダーを高等学校段階から育成する。

課題研究

5つの研究班

原子力防災研究

メディア・コミュニケーション研究

再生可能エネルギー研究

アグリ・ビジネス研究

スポーツと健康研究

国内研修

基礎的学び 「産業社会と人間」において、連携中学校から継続して学ぶ『ふるさと創造学』の中で、ふるさとについての学習し、国内へと視野を広げる。

広島県・長崎県を訪問し、放射線防御、災害からの街づくり、人権について学習する。

いわき明星大学・南相馬ソーラー・アグリパーク等にて、再エネの可能性を研究する。

いわき小名浜菜園にて、インターンシップを行う。

福島大学へ行き、効果的なトレーニング方法を学習する。

海外研修

発展的学び 学校設定科目において、専門的知識を高め、総合的な学習の時間において課題研究を行い、視野を地域から世界へと広げる。

地方創生イノベーションスクール

OECD東北スクール後継事業

ドイツ研修（1～2年次）

- ・海外の地域・学校との研究交流、協同

タイ研修（1年次）

- ・海外進出企業 等

アメリカ研修（2年次）

- ・原子力災害関連施設
- ・再生可能エネルギー関連施設 等

地域再生

国・県への提言

応用的学び 自分の将来を考え、地域の復興につながるテーマについての研究を深め、世界に発信していく。

国内外で研究成果を発表

復興庁、環境省などへ提言

国際的
素養の育成

社会へ 未来へ 貢献するグローバル・リーダー

魅力ある学校とするための先進的な教育を実践するとともに、ふるさとの復興を担い、双葉郡の中学校との連携を確立する。

産業社会と人間

- ◆ 防災教育・ふるさと創造学から地域を考える授業
- ◆ 各界の第一人者、地元企業及び地域の方々からの授業
- ◆ 生徒が主体のアケイグ・ラーニングを導入した授業

学校設定科目

総合的な学習の時間

- ◆ 再生可能エネルギー施設の見学
- ◆ 風評被害の払拭に取り組む農家での就業体験
- ◆ 総合学科研究発表会での発表
- ◆ 福島・国際研究産業都市構想との連携

1年次

2年次

3年次

町役場で、復興の課題を探る



津波浸水区域を歩く



津波浸水区域の復興状況は？



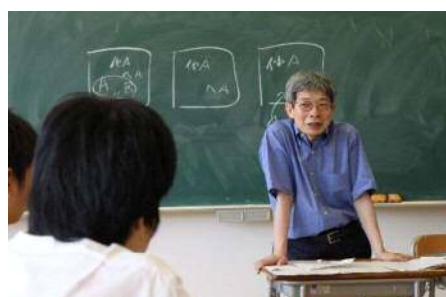
東京電力の話を聞く



地域の課題を対話劇に



「対話」って？



いよいよ上演



迫真の演技！



ベラルーシの皆さんに英語で上演



OECD東北スクールの先輩の話を聞く



2030年の世界は？

